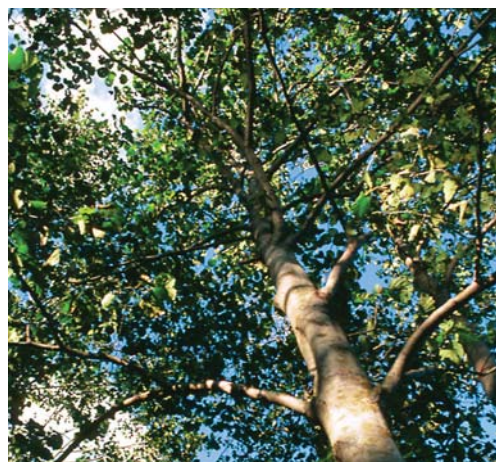


ケヤマハンノキ

Alnus hirsuta

カバノキ科



ケヤマハンノキ

名前の由来

亜種ヤマハンノキ (var. sibirica) の葉は無毛だが、ケヤマハンノキは毛がある。ハンノキは、ハリノキが変化したものだが、ハリノキは不明。開墾を意味する墾(ハリ)から出たとする説がある。漢字名：毛山榛木

形態的特徴

樹平地から山地に生える落葉樹、樹高20m。葉は広楕円形～広卵形、長さ6～14cm、浅い欠刻状重鋸歯縁、基部切～やや円形、側脈6～8対、小枝や葉の裏に褐色の毛が密にある。雌雄同株。雄花序は褐紫色、長さ7～9cmの尾状で下垂、雌花序は長さ約4mm、紅褐色で4月開花。果実は卵

状楕円形、長さ15～25mm、10月成熟。

類似種との見分け方：ケヤマハンノキの葉は重鋸歯が大きく波打つのに対し、ミヤマハンノキは波打たない。ケヤマハンノキは葉裏に毛が密にあるが、ヤマハンノキの葉は無毛。



ケヤマハンノキの花

ケヤマハンノキの雌花

ケヤマハンノキの果

ケヤマハンノキの葉。比較的円に近い。大きなギザギザがあって、更に小さなギザギザがある(重鋸歯)



ケヤマハンノキの樹形。幹が直立する

ケヤマハンノキの樹皮。大小の灰色の皮目がある

ケヤマハンノキの冬芽

夏のケヤマハンノキの葉と花

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期												
結実期												

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

河畔林、河岸段丘や谷の下に生育する。水路沿いに生育する。成長がきわめて早く、3年で2mに達する。ハンノキが湿地に生育するのに対し、ケヤマハンノキは礫質の地盤でもよく生育する。

分布：国外分布は、樺太、朝鮮、中国東北部、ウスリー、黒龍江地方、東部シベリア、カムチャッカ。国内分布は、北海道、本州、四国、九州。北海道内分布は、全域。十勝地方生息状況は、全域。

繁殖生態・寿命

花は4月に開花。果実は10月に成熟。風によって種子散布する。寿命94年(北海道大学苫小牧演習林 標本館)。樹高22m、直径40cm、樹齢59年(新王子林木育種場 標本館)。植栽は実生で、あるいはとりまき、または種子を取り出し密封保存して翌春まく。

他生物との関わり

ミドリシジミ幼虫の食樹となる。
若木の葉がハンノキハムシに食い尽くされることがある。



ミドリシジミ(左がオス、右がメス)。
幼虫時、ケヤマハンノキやハンノキを食樹とする
(標本-吉原利之氏所蔵)

植栽関係

実生による。とりまき、または種子を取り出し密封保存して翌春まく。

興味深い話

- 土木・器具材、砂防用、公園・街路樹などに用いられる。樹皮・球果からは染料やタンニンを探る。材は建築、器具、薪炭用。護岸用に植えたりする。あと、鉛筆材として用いられる。
- 十勝地方の(全道的にも)アイヌ語では「ケネ」という。
- アイヌ語名の「ケネ」は「血・木」という意味であり、この木を切ると、樹皮から赤っぽい水がにじみ出るので、アイヌの人たちはこれを「血」と考え、大量の出血があったとき煎じて服用し、補血強壮剤としたという。樹皮は赤の染料として用いた。赤ちゃんのおしゃぶりをこの木から作り、なめたりかじったりすることによって、すくすく成長してほしいとの親の願いがこめられていた。芽室町の地名「毛根(ケネ)」はここから来ていると思われる。



河川工事後3年目の場所に成長したケヤマハンノキ。
こうした場所に最も早く生育する樹木の一つ

配慮事項

根粒菌を有するので、肥料木として利用可能。周辺に母樹がある場合、砂利原等に侵入して純林を形成する可能性がある。

参考文献

「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996ハンノキで検索)
「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995
「日本のチョウ」上野明雄 小学館 1981
「北海道樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990
「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社 1978

「沢井トメノ 十勝本別分類アイヌ語辞典」本別町教育委員会(編・発行) 1989

「知里真志保著作集 別巻I 植物編・動物編」知里真志保、平凡社、1976

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・森林)
鳥類
ワシ・タカ